

共助

溝谷区自主防災会

～のぼり旗で防災意識を高める～



▲区内に掲出されたのぼり旗

溝谷区自主防災会は、40～60歳代の区民を中心に55名（平成27年4月現在）で構成されています。

主な活動は、区民を対象とした救急講習会や消火栓取扱い訓練を実施しています。また、毎月1日を「防災の日」と決め、区内の日立つ場所にのぼり旗を掲出したり、「溝谷区自主防災会だより」を発行して、区民の防災意識を高めるための広報活動にも力を入れています。

◎弥栄町溝谷

◎発足 平成26年3月1日

◎会長 吉岡 厚司



▲防災への思いを熱く語る、会長の吉岡厚司さん（左）と区長の田畑佐一郎さん（右）

溝谷区は、高齢者福祉施設が多い地区であり、災害発生時には、施設と地区の連携が必要不可欠です。

お互いの連携を強化するためにも訓練やミーティングを継続し、区の安全・安心につなげていきたいと考えています。

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織。平成27年9月1日現在、本市では、135の自主防災組織が活動中。

共助

新庄区夜番

～拍子木で火の用心～



▲拍子木を打ち鳴らしながら区内を回る親子

新庄区では、区民に火の用心を呼びかけるため、拍子木を打ち鳴らしながら区内を回る「夜番」を行っています。これは過去に同区で発生した火災をきっかけに始まったと言われ、58戸（平成27年1月現在）が順番にほぼ毎日回っています。以前は大人と

子供がそれぞれに行っていましたが、現在は子供が少なくなり、大人の夜番だけが残っています。

◎久美浜町新庄



▲子供のころを懐かしむ吉田三郎さん（左）と岡下宗男さん（右）

夜番は子供のころから回っています。悪天候で辛いときなどもありましたが、近所の子供たちが集まり一緒に回ったことは楽しい思い出です。拍子木を打ち鳴らしながら歩いていると、自分自身の防

火意識の高まりを感じたものです。今は子供たちだけで回ることはありませんが、防火意識を高めるためにも、大人の夜番はこれからも続けてほしいものです。

公助



▲東日本大震災被災地で活動する京都府緊急消防援助隊

「自助」「共助」「公助」の連携の輪を広げよう

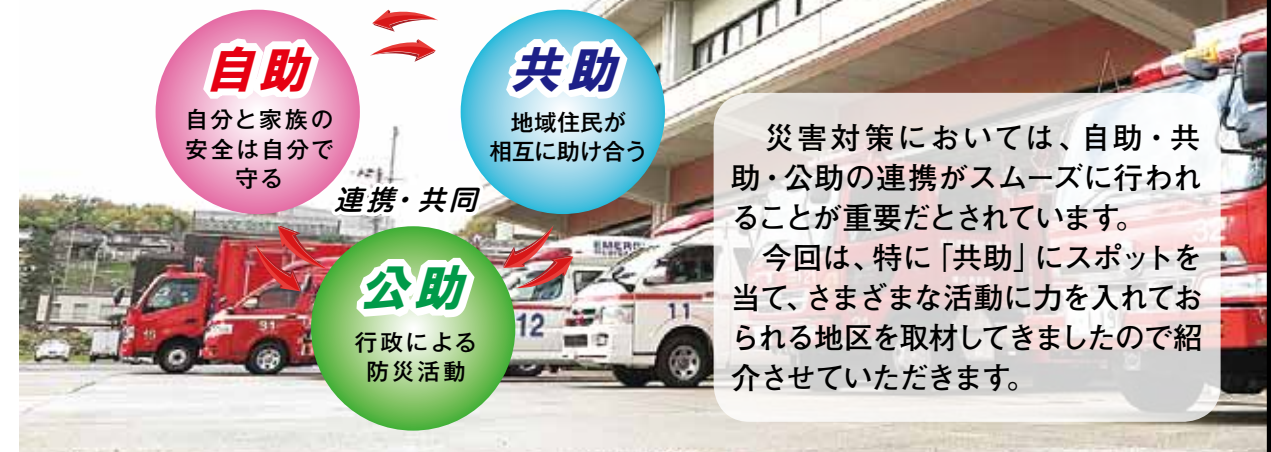
災害対策の第一歩は、一人ひとりが防災意識を高め「自助」の力を高めることです。自分一人では対応できなくなったとき、頼れるのは「共助」です。

そして、「公助」の手が円滑に被災者のもとへ届けられるには、「共助」との連携が欠かせません。こうした連携が被害の拡大を防ぎ、素早い復興、復旧にもつながります。

いつ発生するかわからない災害に備えて地域が一体となり、「自助」「共助」「公助」の連携の輪を広げてください。

自助・共助・公助

の連携で災害に備える！



災害対策においては、自助・共助・公助の連携がスムーズに行われることが重要だとされています。

今回は、特に「共助」にスポットを当て、さまざまな活動に力を入れておられる地区取材してきましたので紹介させていただきます。

消防の広場

119

火事・救急・救助

ついていますか
住宅用火災警報器
月に一度は動作点検

「自助」が災害対策の基本

東日本大震災のような大きな災害が発生すると、行政機関も大きな被害を受け、被災者を迅速に支援（公助）することが難しいこともあります。

そのような場合には、一人ひとりが自発的に避難行動や救助活動を行うことが重要になってきます。

いつ発生するかわからない災害に備え、自分でできること、家族でできることを考え対策しておくことを「自助」といい、これが災害対策の基本となります。

大規模災害時は「共助」が重要

大規模な災害を前にすると、自分や家族だけでできることには限界があります。

隣近所や地域全体で力を合わせ、高齢者など災害時要配慮者の避難に協力したり、避難所の運営を行うなど、相互に助け合う「共助」が重要な役割を果たします。

共助

奥大野ふるさとレスキュー

～地域の安心・安全のため～

◎大宮町奥大野

◎発足 平成27年7月10日

◎代表 川口 勝彦



▲平成27年10月23日、発足式で看板を掲げる川口代表（左）

この度、京都府等の協力により奥大野ふるさとレスキューを発足させることができました。

今後は、登録メンバーが救急講習会や認知症サポーター養成講座などを受講して、けが人への応急処置や高齢者のサポートを担える高い知識・技能を持った区民を増やしていきます。

そして、区民同士が助け合える「自助」「共助」の意識が高い区・隣組を目指します。

奥大野ふるさとレスキューは、消防団、自主防災会、福祉の会などに所属する区民112名（発足時現在）から構成されています。

主な活動は、区民を対象とした講習会を開催したり、高齢者の見守り活動などを行っています。また、毎月8がつく日（8日、18日、28日）には、「火の用心」ののぼり旗を立て、防火意識の高揚を図っています。



▲救急講習会を受講する登録メンバー

ふるさとレスキューは、消防署から遠隔地となる中山間地域で、消防団員を中心に大規模災害時の救助や、救急隊が到着するまでの応急手当や救護などに、地域ぐるみで取り組むための仕組みで、京都府が実施する事業。